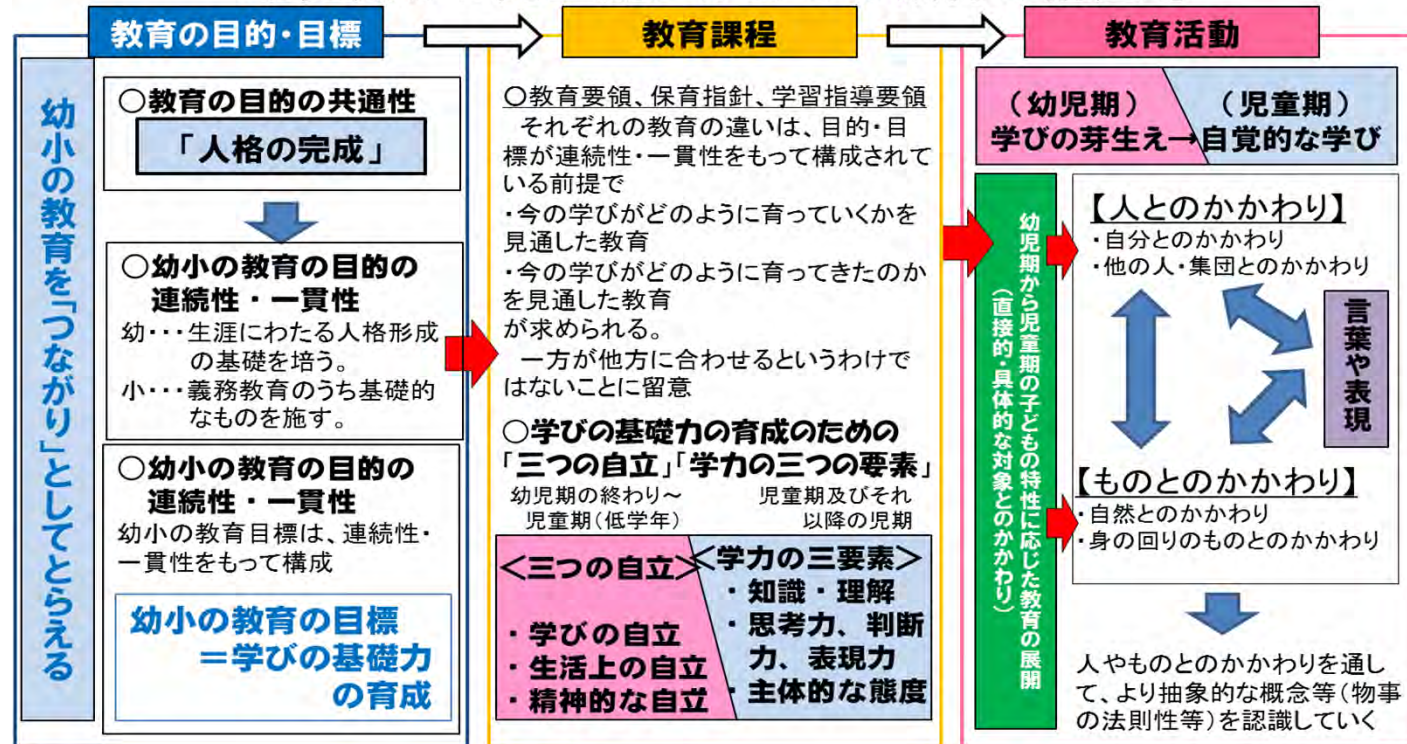


参考資料 幼児期から児童期にかけての教育の構造等



- (※1) 「学びの自立」・・・自分にとって興味・関心があり、価値があると感じられる活動を自ら選んで行うとともに、人の話をよく聞いて、それを参考にして自分の考えを深め、自分の思いや考えなどを適切な方法で表現すること。
 「生活上の自立」・・・生活上必要な習慣や技能を身に付けて、身近な人々、社会及び自然と適切にかかわり、自らよりよい生活を創り出していくこと。
 「精神的な自立」・・・自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもつことによって、現在及び将来における自分自身の在り方や夢や希望をもち、前向きに生活していくこと。
- (※2) <学力の三つの要素>・基礎的な知識・技能
 ・課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力等
 ・主体的に学習に取り組む態度
- 【幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）】より

接続カリキュラムリーフレット 作成協力者 一覧

- 稲 葉 真菜美 (木津川市立相楽小学校 教諭)
- 内 田 智 子 (京都府山城教育局 総括指導主事)
- 大 西 康 子 (城陽市子育て支援課 主幹)
- 奥 西 香 織 (京都府山城教育局 社会教育主事兼指導主事)
- 岡 田 真 奈 (八幡市立くすのき小学校 教諭)
- 瀧 下 弥 紀 (こぞくら幼稚園 教諭)
- 中 田 純 子 (ひいらぎ保育園 園長)
- 中 村 愛 子 (宇治市立神明小学校 教諭)
- 中 村 満 (井手町立井手小学校 校長)
- 西 村 めぐみ (久御山町立佐山小学校 教諭)
- 松 浦 尚 子 (京田辺市立三山木幼稚園 教諭)
- 米 澤 正 展 (京都府山城教育局 指導主事)

※このリーフレットの漢字や仮名遣いは、文部科学省「小学校学習指導要領」をもとに表記しています。

このリーフレットは、京都府山城教育局ホームページにも掲載しています。

<http://www.kyoto-be.ne.jp/yamasiro-k/cms/>

幼稚園・保育所(園)・認定こども園など

幼児期の教育と

小学校教育の

円滑な接続のための

接続カリキュラム
リーフレット



山城地方
「育ちと学びをつなぐ」連携会議

保存版

あなたの園・所・学校はどのステップですか？

連携から接続へと発展する過程のおおまかな目安と教育委員会等の役割

ステップ0 連携の予定・計画がまだ無い。

⇒地方公共団体が連携の重要性を理解するための教職員向け説明会・研修会等を開催するなど、連携に向けた環境づくりが必要。連携・接続のために各学校・施設同士の合意ができる環境を整えていく。



ステップ1 連携・接続に着手したいが、まだ検討中である。

⇒教育委員会等の支援のもと、各学校・施設に担当者を置き、定期的に意見交換会を開催。意見交換の中から、交流授業、行事などを企画・実施し、子ども同士の交流、教職員の交流を推進。その際、各学校・施設では全教職員の理解と協力のもとで行われるよう留意。



ステップ2 年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。

⇒年数回程度の授業、行事、研究会などの交流を年間指導計画などに位置付けて実施。事前だけでなく事後の反省・検証を行うことで次につなげていく。教育委員会等の主催・支援のもと、接続を見通した教育課程の編成・実施に向けた取組を始める。



ステップ3 授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。

⇒恒常的な授業、行事、研究会などの交流に発展。連携の実践を踏まえ、接続を見通した教育課程を編成・実施する。



ステップ4 接続を見通して編成・実施された教育課程について、実践結果を踏まえ、更によりよいものとなるよう検討が行われている。

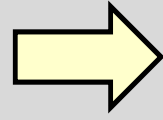
⇒接続を見通した教育課程を編成・実施するとともに、学期末ごとや年度末に事後の反省・検証を行うことにより、PDCAサイクルを確立し、次年度以降の改善につなげる。

その(連携から接続へと発展させる)際、都道府県や市町村の教育委員会等が上記の目安を参考にして、あらかじめ幼小の連携・接続に関する基本方針や支援方を策定し、各学校・施設はそれに基づき連携や接続のための教育課程の編成・実施を進めることが望ましい。

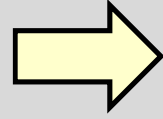
【幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)】より

園・所・学校ですべきことは？

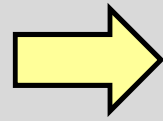
今すぐ、連携が必要な園・所・小学校、または市町(広域連合)教育委員会にご連絡を！
山城教育局管内のすべての小学校で連携事業が行われています。



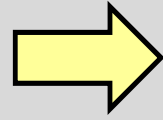
連携・接続担当を決め、連絡を取り合しましょう。ただし、連携は組織的に！
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続は、子どもたちの発達や学びの連続性を保障するために欠かせません。組織が一体となった取組が必要です。
具体的な内容は、担当者間で協議します。



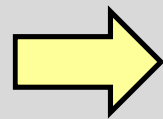
さあ、連携・接続のためのカリキュラムの作成です。
カリキュラムの作成のために最も重要なことは、子どもたちの発達の段階や特性に合わせた内容にすることです。
このリーフレットは、そのためにあります。
園・所はアプローチカリキュラムの作成、小学校はスタートカリキュラムの作成のページを参考に発達の段階に合わせた指導計画を作成しましょう。



カリキュラムは、幼保小がつながったものになっていますか？
接続のためにはお互いの教育・保育内容の理解が大切です。接続カリキュラムとは？、つながりをイメージするためにのページには「三つの自立」と「学力の三つの要素」をつなぐ「学ぶ力」「生活する力」「人とかわる力」の三つの力それぞれで、付けたい力や指導計画が示されていますので、参考にしてください。



ぜひ、各校・園・所の実践を発信、普及してください！
すばらしい実践をありがとうございます！
毎年、実践を振り返り改善しながらよりよいものとしてください。
また、その実践を他の学校・園・所にも発信してください。機会は、教育委員会や教育局で設定します。
よろしくお願いいたします。



では、ページを開いて下さい！

リーフレット活用のために

「接続カリキュラム」とは

幼児期は「**学びの芽生え(無自覚的な学び)の時期**」、児童期は「**自覚的な学びの時期**」であり、幼児期の教育と小学校教育とでは、学び方に違いがあります。子どもたちが、小学校入学時に「壁」を感じず、スムーズに小学校生活を始めるためには、幼稚園・保育所、小学校が「つながり」を意識したカリキュラムを作成することが必要になってきます。

「**接続カリキュラム**」とは、幼稚園・保育所、小学校がお互いの内容を理解し、「**育ちと学び**」を円滑につなげるために作成する「**アプローチカリキュラム**」と、「**スタートカリキュラム**」の総称を指します。

○アプローチカリキュラムとは

幼稚園・保育所での子どもたちの育ちや学びの芽生えを小学校につなぐために作成するカリキュラムです。小学校入学に向けて、言葉による伝え合いや、協同する遊びなどの学びを高めていくことが大切です。

○スタートカリキュラムとは

小学校に入学した子どもたちがスムーズに小学校の生活や学びに適応できるように作成する一年生入学当初のカリキュラムです。

小学校学習指導要領解説生活編には、「幼児教育との接続の観点から、幼児と触れ合うなどの交流活動や他教科等との関連を図る指導は引き続き重要であり、特に、学校生活への適応が図られるよう、科学的な指導を行うことなどの工夫により第1学年入学当初のカリキュラムをスタートカリキュラムとして改善することとした。」と示されています。

アプローチカリキュラム

幼児期

学ぶ力

- ①友達と好きな遊びを見つけ、役割分担をしたり、自分たちで遊びを展開したりしていく。
- ②自分が感じたことを絵などにしたり、体や声を使って表現したりすることを楽しむ。
- ③言葉で伝えるだけでなく、考えや気持ちを文字で伝えられることに気付く。
- ④数を取り入れた遊びを楽しむ。
- ⑤花や虫などの生き物に関心をもち、遊びに取り入れたり、発見することを楽しんだりする。
- ⑥保育者の指示や合図を聞いて、集団行動ができる。



遊びの中で
数を覚えるよ!!

生活する力

- ①生活の中にきまりやルールがあることを知り、主体的に生活したり、用具・道具の安全な使い方等を知って、遊びに活かしたりする。
- ②活動に必要なものが自分で分かり、準備したり片付けたりする。
- ③トイレや手洗い場など、共有している場所を気持ちよく使えるように、自分ができていることを考える。
- ④食べることに興味をもち、一定の時間内に友達と楽しく食事をする。
- ⑤保育者の手伝いをしたり、自分で身の回りをきれいにしたりすることで、心地よさを味わう。



自分のことは
自分でするぞ!

人とかわる力

- ①親しみをもって挨拶する。
- ②自分の思いや考えを相手に伝えることの大切さを知る。
- ③相手の思いに共感したり認め合ったりすることで生活の充実感を味わう。
- ④遊ぶ時、話を聞く時など気持ちの切り替えができ、けじめがつけられるようにする。
- ⑤友達とともに活動し、思いを共感し、一緒にやり遂げた喜びや達成感を味わう。
- ⑥集団生活の中できまりを理解したり、自分たちでルールを決め遊ぶ。
- ⑦遊びの中でトラブルが起こった時、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを受け入れたりしながら折り合いを付けられるようにする。
- ⑧友達や、小さな子どもなどに、思いやりをもって接する。

小学校入学時

小学校

なだらかな「段差」

スタートカリキュラム

学ぶ力

- ①学びたいという意欲をもち、学習活動に積極的に取り組む。
- ②自分の考えたことを様々な方法でのびのびと表現する。
- ③正しくひらがなを読み書きする。
- ④10までの数について読み書きができ、順序が分かる。
- ⑤動植物など、自然に親しみと興味をもってかかわったり遊んだりする。
- ⑥教師の話や指示を聞いて理解し、行動する。

かずのべんきょう、
楽しいよ!



生活する力

- ①集団生活をやる上で、学校のきまりを守り、安全に気を付けて生活する。
- ②自分の持ち物は自分で管理し、整理整頓する。
- ③トイレの使い方を知り、次の人のことを考えて使用する。
- ④給食の準備や片付けの仕方が分かり、マナーを守って好き嫌いせず楽しく食べる。
- ⑤掃除の進め方を理解し、協力して掃除をする。



友達のもの
配るよ!

人とかわる力

- ①自ら進んで挨拶をする。
- ②自分の伝えたいことを相手に分かるように話す。
- ③相手の話を共感しながら最後まで聞く。
- ④集団行動の基本的な動きを知り、安全に楽しく運動する。
- ⑤友達と協力して、一緒に活動する楽しさを知る。
- ⑥順番やルールを守って遊んだり、生活したりする。
- ⑦トラブルの対処法が分かり、自分たちで解決しようとする。
- ⑧地域の人や上級生などへの接し方を考えてかわる。

一緒に遊べて
楽しかったよ!



お姉ちゃん、
遊びを教えて
くれてありがとう!

接続カリキュラムとは?

スタートカリキュラムの作成のための配慮と工夫のポイント

授業の工夫

- これまでの子どもたちの経験が活かされ、学習意欲が高まり分かりやすい授業にするため、体験的な活動や操作などを取り入れる。
- 子どもの興味・関心を大切にしながら柔軟な発想の授業を構想する。
- 学習補助員などが授業に入り、一人一人の子どもにきめ細やかに対応する。

きまりへの適応と

安全への配慮

- きまりやルールの必要性や大切さを考え、体験し、身に付けられるようにする。
- きまりやルールは、安全面に関するものを優先的に指導する。特に登下校では、子どもが自分で危険を予測し、安全に行動することができるように、場面や状況に即した安全な行動を具体的に教える。

時間割の工夫

- 子どもの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めるため、生活科や他教科との合科的な指導を取り入れる。
- 子どもの実態に応じて徐々に45分の授業に慣れるようにするため、入学当初はモジュール授業を取り入れるなど、生活リズムを大切にしながら横断的な時間割を工夫する。

スタートカリキュラム例(久御山町スタートカリキュラムより)

| | 4月7日(木) | 4月8日(金) | 4月11日(月) | 4月12日(火) | 4月13日(水) | 4月14日(木) |
|-----|-----------------------|---------|----------|--------------|-------------------------|--|
| | | 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 |
| 朝学習 | | 健康観察 | 読み聞かせ | 健康観察 | 健康観察 | 健康観察 |
| 1校時 | あひさつ返事 かたづけ | 健康観察 | 健康観察 | うたにあわせてあいうえお | かず 10までのかず | モジュール(10分) 1~2音さがし |
| 2校時 | とれつつかいかた | 生活 | 生活 | たいいそくてい | きがあかたならびっこ ゆうくのつかいかた | かず(10分程度)モジュール オリエンテーション(教科書に入る) |
| 3校時 | かず 百玉そろばん 5までの合成分解 | 算数 | 算数 | 算数 | 音楽 | クレパスをつかって |
| 4校時 | かたづけ | 生活 | 学活 | 図工 | 生活 | 「ここにここをおかこう」 (自画像) |
| 5校時 | 地域児童会 | | | | | そうじのしかた きゆうしよくのよういのかた そうじのしかた ・そうきんのしほりかた ・ほうきのつかいかた ・いすつくえのはこびかた |

人間関係の配慮

- 友達とのかかわりを軸に子ども同士の人間関係が広がるよう、学年や異年齢集団などの活動を取り入れる。
- 入学当初は、子どもたちが不安を感じがちになる。毎日の健康観察や下校時に声を掛け、子どもとの信頼関係を築くことを心がける。

幼児期の経験を生かす配慮

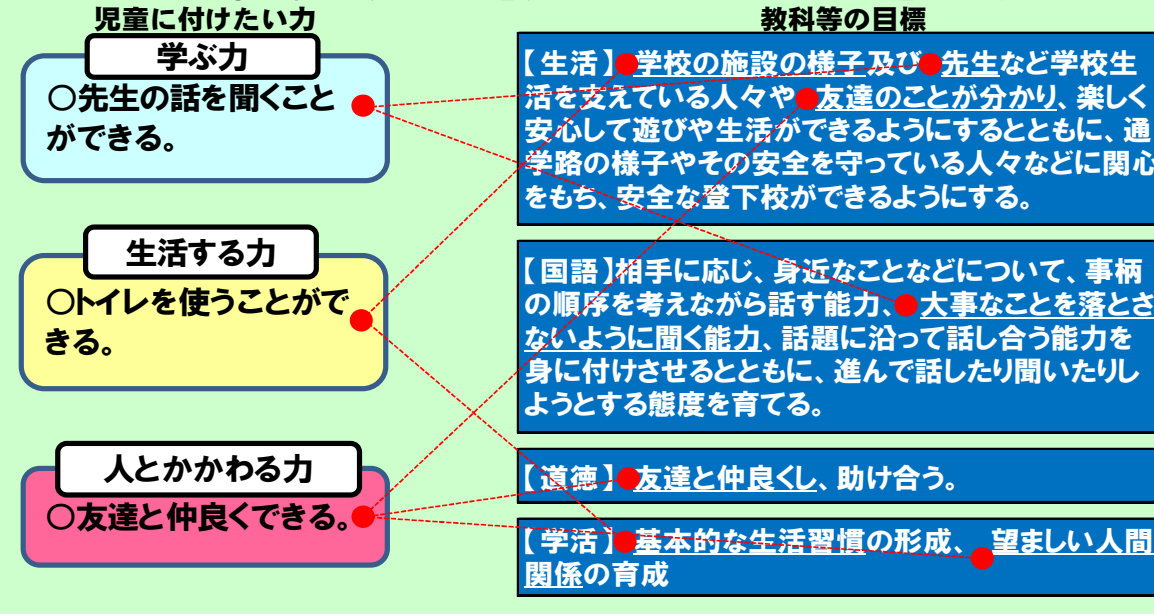
- 環境の違いや個人差が大きいことを踏まえ、視覚的表示や学習空間以外のスペースの工夫など集中しやすい学習環境を整える。
- 約束を守り、大勢の友達と自分たちのルールを作ったり、変えたりしながら楽しく遊ぶことなど、入学までの経験や身に付けたことを生かし、意欲をもって学習できるようにする。

家庭との連携

- 入学式や懇談会の他、連絡帳や学級だよりなどで家庭との連携を図る。
- 小学校生活を具体的に紹介する機会をもつ。
- 子どもたちの課題や保護者の不安を把握し指導に生かすため、個別相談を積極的に行う。

スタートカリキュラム作成の流れ

- ステップ1 スタートカリキュラム作成のための事前の準備をする。
- ステップ2 子どもが発達の段階や特性を把握する。
- ステップ3 入学当初に子どもたちに身に付けさせたい力を話し合う。
- ステップ4 どんな力、どんな習慣をいつまでに身に付けさせるか整理する。
- ステップ5 指導内容とその配列を決めスタートカリキュラムを作成する。



カリキュラム事例(久御山町スタートカリキュラムより)

4日目 さんすう「かず 10までのかず」

本時のねらい

- ・2つのものの集まりの要素を1対1に対応づけ、数の多少を調べる。
- ・2つのものの集まりを色別の数図ブロックに置き換え、数図ブロック同士を1対1に対応づけて数の多少を調べる。
- ・1から10までの数字を数と結びつけて読むことができる。

| 時間 | 指導内容 | 指導形態 | 主な学習活動 | 指導上の留意点 | 教材・教具等 |
|-----|---------|------|---|--|--------------------|
| 5分 | 1 復習 | 一斉 | ○百玉そろばんを用いて数唱する。 ・数唱 ○フラッシュカードで数を読む。 ・数の数え方 ・ドッツカード | ・入学までに子どもたちが身に付けた百玉そろばんの活動を生かし、意欲的に学習できるように支援する。 | 百玉そろばん 絵カード |
| 5分 | 2 数字 | 一斉 | ○1~10までの数字とその読み方を知る。 | ・フラッシュカードでドッツカードとともに数字を示し声に出させる。 ・ドッツカードを用いることにより、少しずつ数に対しての抵抗感をなくしていく。 | フラッシュカード ドッツカード |
| 10分 | 3 1対1対応 | 個別 | ○教科書に数図ブロックをおいて数える。 | ・数図ブロックをとったり並べたりする練習をさせる。 ・教科書(P4,5)を開いて | 数図ブロック 教科書 |

「指導上の留意点」では、配慮と工夫のポイントを「授業の工夫」は「幼児期の経験を生かす配慮」は で表しています。

※配慮と工夫のポイントの●は学校の環境整備、○は指導の留意点を示しています。

つながりをイメージした両カリキュラムの具体例

<三つの自立>を育成するためのアプローチカリキュラム例

学ぶ力

- ねらい
 - 身近な環境に自分からかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れたいと思う。
 - 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う楽しさを味わう。
- 内容
 - 季節により、自然に変化があることに気付く。
 - 見たこと、感じたこと、考えたことを自分なりの言葉で表現する。
- 主な活動
 - 第1時 絵本「ふゆめがしょうだん」を読み、冬芽探しに出かける。
 - 第2時 見つけた冬芽に名前をつける。
 - 第3時 写真を使って冬芽カルタを作る。
(例:はつばの赤ちゃん・アジサイの芽・ふさふさ毛が生えているキウイフルーツの芽・つんつんとがった桜の芽など)



幼児期の教育の経験を生かしたスタートカリキュラム例

学ぶ力

- 単元名
生活科 「さあ！みんなでかけよう」
- 単元目標
安全に気を付けて、遊び場や野原に出かけて行き、みんなで遊びながら、人や自然と触れ合うことができる。また、春の季節を感じ取ることができる。
- 主な学習活動
 - 第1時～第6時
 - ・身近な公園を紹介し、いつもどんな遊びをしているか話し合う。
 - ・春見つけに行く計画を話し合う。
 - 第7時～第8時
 - ・公園に行き、「どんなものがあるか」「どんな生き物や虫がいるか」「どんなあそびができるか」を考え、楽しく遊んだり、春見つけをする。
 - ・楽しかったことや発見したことを「みつけたよカード」に書き、発表する。

みつけたよカード

文

☆色だけでなく、形やにおいなど様々な感覚を織り交ぜるように配慮する。

生活する力

- ねらい
 - 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。
- 内容
 - 友達と楽しく生活する中でできまりの大切さに気付き、守ろうとする。
 - 自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。
- 主な活動
 - ・ルールのある遊び(鬼ごっこ・ドッジボール・トランプなど)を楽しむ中で、話し合いを通して、負けても泣かない・押さない・並んで順番を待つなどのルールを学ぶ。
 - ・「長い針が〇〇になったら片付けにしよう。」と話し合っ決めて、見通しをもって活動に取り組む。
 - ・みんなが気持ちよく使えるようにするにはどうしたらよいかを考え、使った遊具や用具をもとの場所にきちんと片付ける習慣を身に付ける。

生活する力

- 資料名
道徳 「チャイムがなった」
- ねらい
決められた時刻を守り、規則正しい生活をしようとする態度を育てる。
- 主な学習活動
 - ・遊ぶことに夢中になり時間を守れない登場人物の気持ちを考え、それぞれの気持ちをとらえる。
 - ・登場人物はなぜ時間を守れないのか、その克服方法にも目を向ける。
 - ・どの場面でも時間を守ることが大切であることに気付く。



人とかかわる力

- ねらい
 - 身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ。
 - 自分の思いや考えを相手に伝え、相手の思いも受け止めて、共感したり認め合ったりして、伝え合う喜びを味わう。
- 内容
 - 親しみをもって日常の挨拶をする。
 - 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- 主な活動
 - ・自分から進んで挨拶をする。
 - ・行事の挨拶をする。
(開会や閉会のことばを、年長として人前で恥ずかしがらずにはっきりと話す。)
 - ・誕生日会でインタビューに答える。
 - ・終わりの会で、その日の体験について、したこと・見たこと・思ったことを話す。
また、その日の活動をもとにどう発展させるか、明日どんなことがしたいかを仲間と相談する。



人とかかわる力

- 単元名
国語科 「こんな いしを みつけたよ」
- 単元目標
 - ・必要な事柄を思い出したり、見て確かめたりして、姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して順序立てて話すことができる。
 - ・友達の話を興味をもって聞くことができる。
- 単元設定の趣旨
理由を表す言い方として、「～からです。」を用いて話すように指導する。
- 主な学習活動
 - 第1時・2時
石の特徴を見つける。
 - 第3時・4時
 - ・自分の石の特徴を見つけ、付けた名前と理由を友達に話す。
 - ・友達の発表に興味をもって聞く。

わたしのいしのなまえは、いも虫ちゃんです。
青くて、長丸でいも虫に似ているからです。
(触るとつるつるしています。)

☆名前・わけの順に話していることを確認する。
☆質問したい児童がいれば、「～ですか。」を使って質問させる。

つながりをイメージするために